

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	京都府立舞鶴こども療育センター 放課後等デイサービスそらいろ		
○保護者評価実施期間	2024年 4月 3日 ~ 2025年 2月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 47名	(回答者数)	32名
○従業者評価実施期間	2024年 4月 3日 ~ 2025年 2月 20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種による療育支援	公認心理師、指導員、理学療法士等を配置。専門性を活かした内容のプログラムを実施することを目的にSST(ソーシャルスキルトレーニング)を実施しています。	他の専門的スタッフの参加により、より多面的な視点で子どもの評価や活動の充実を図る。
2	控室でモニターを通して活動内容が見学できる	事前に活動内容を掲示して、当日の活動の周知を行っていることや、活動後にスタッフから保護者に振り返りの時間を設け、活動内容を説明する機会を設けています。	活動内容を記録してスタッフの振り返りにも利用し活動のさらなる充実を図る取り組みをしていきます。
3	医療との連携	主治医とタイムリーに情報共有し、アセスメントをおこなっています。	活動や内容について医療からの情報提供やディスカッション、スキルアップのための研修等を通じて取り組みの充実を図ります。

		事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	低学年中心の利用	集団生活に課題を抱えるお子さんを対象としたソーシャルスキルトレーニングが活動中心。	主治医と連携し、高学年が抱える課題やニーズを整理し、対応できるスタッフの人材確保や育成を通じて保護者の希望に応える体制作りが必要。
2	タイムリーな保護者の困り感や不安への対応に十分な時間をとれていない	限られた時間の中で保護者の相談に対応するより活動報告が中心になってしまう。タイムリーな対応をするためには営業時間外になってしまう。	個人相談対応やペアレントトレーニング等を計画し、不安や困りごとに相談できるシステム作り。
3			